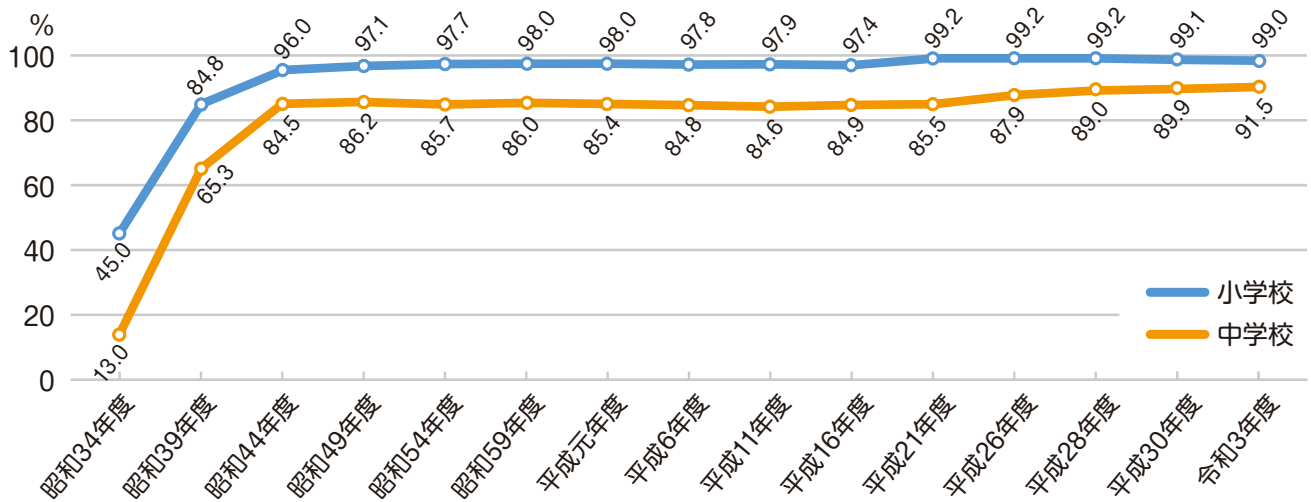


日本の学校給食はいつから実施されているの？

日本の学校給食の発祥は、明治22年山形県鶴岡町（現鶴岡市）の私立忠愛小学校とされています。その後、都市部を中心に広まり、戦後の厳しい食糧事情を乗り越え、全国的に普及していきました。

現在は小学校でほぼ100%、中学校で90%を超える学校で給食が実施されています。

小学校・中学校の学校給食実施状況



出典：学校給食実施状況等調査

対象：国公立小・中学校

学校給食における地場産物・国産食材の使用割合

(金額ベース)

令和3年度の全国平均で、地場産物は56.0%、国産食材は89.0%となっています。

出典：令和3年度学校給食における地場産物・国産食材の使用状況調査



学校給食に地場産物・国産食材を活用することは、児童生徒に地域・国の産業や文化への関心をもたせるなど、教育的意義を有しています。

国においても、食育基本法や食育推進基本計画に基づき、郷土食や地場産物・国産食材の使用を推進しています。